

第4回飯田市平和祈念館展示・活用検討委員会 次第

日時：令和5年11月7日（火）19：00～

場所：市役所本庁舎 C311

1 開会

2 教育長あいさつ

3 報告事項

- ・第3回飯田市平和祈念館展示・活用検討委員会でいただいた主な意見（資料No. 1）
- ・平和を語り継ぐための学習活動について（資料No. 2）

4 協議事項

（1）展示パネルについて（資料No. 3）

（2）小中学校への貸出教材について（資料No. 4）

5 その他

6 閉会

裏面あり

(1) 飯田市平和祈念館設立趣旨

飯田市は昭和五九年六月二八日に「非核平和都市宣言」を行い、世界唯一の被爆国として、広島、長崎の惨禍を再び繰り返さないため、平和憲法の本質にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、世界の恒久平和達成を目指しています。

飯田市平和祈念館は、戦争の悲惨さや、平和の大切さを学び、戦争の現実を語り継ぐことにより、平和な社会が続くことを切望する、多くの市民の願いによって開館されました。

ここに展示・保管されている数多くの平和資料は、実際に戦争を体験された皆さんが身に着けた物や、使用していた品々です。いずれもご本人やご遺族から寄贈・寄託された貴重な資料です。

私たちは、この平和祈念館において、平和資料を通して戦時下の悲惨で過酷な状況を学ぶとともに、当地域の満蒙開拓の歴史を始めとした内外の「戦争の惨禍」の真実から、一人ひとりが「平和とは何か、そのために何をすべきか、何ができるのか」を考え、次世代に平和の大切さを語り継ぎます。

(2) 展示内容の基本的な考え方

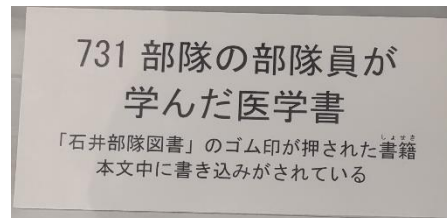
- * 展示内容については、飯田市が責任を負うものとする。
- * 学術研究の成果に依拠し、歴史史料としての根拠、出典が明確なものを展示する。
- * 市民が、平和の大切さや尊さについて、自ら主体的に学び、考えることができる展示内容にする。
- * 戦争の歴史を、多角的に学ぶことができる展示内容とし、戦争によって残された遺族が責められることのない展示とする。
- * 小学生から高校生までの学校での学習を基礎にして、子どもの発達段階に即して、「主体的で、対話的な、深い学び」が可能となる展示内容とする。
- * 住民との対話・交流等のコミュニケーションを継続的に深め、住民の合意を得ることが可能となる「公共空間」にふさわしい展示内容をめざす。
- * 基本的人権を尊重した展示内容とする。特に著作権の侵害がないことや、個人情報への配慮を行うものとする。

第3回飯田市平和祈念館展示・活用検討委員会でいただいた 主な意見とその対応について（7月26日開催）

【資料のキャプションについて】

- ・731部隊の部隊が学んでいた医学書に、「石井部隊図書」の蔵書印が押されているため、石井部隊にあった図書であるということを書いてほしい。

→右のように展示を行いました。



【展示パネルについて】

- ・文字数が多すぎて1ページでこれだけの物を展示するというのは無理がある。2ページくらいに分けて、もう少し写真を入れたり、大きな地図でハルピンだけでなく5つのところにあったことを大きな地図に示した方がいいかと思う。
- ・「極秘部隊」であると入れてほしい。
- ・細菌兵器の使用は「国際条約に違反」したものであったため入れてほしい。また、東京地裁の判決文の中に、「非人道的なものであったとの評価を免れない」と表現があり、「非人道的」を入れてほしい。
- ・リード文に「細菌兵器の研究開発、製造を行った部隊です。」「この部隊は細菌兵器の研究で」と「細菌兵器」が重複しているので、割愛していいのではないか。また、中国東北部というところに、「満洲」という言葉を入れた方がいいのではないか。
- ・歴史観に関わる「結論」を押し付けるのではなく、それぞれに思想・信条が違う人たちが、どう受け止め、どう考えるのか、その判断を委ねるというコンセプトで出来ていると思うので、このコンセプトが展示として大事と思う。平和祈念館は、歴史的意味をどう考えるか問題提起の場として展示し「歴史をめぐる対話」の場にすべきではないか。
- ・パネルの地図を当時のものに合わせると子ども達が事前学習をしていくので、学習内容と整合性が取れると思う。現在の地図には当時成立していない国が載っているので、教科書や資料集に合わせてもらえると学習がスムーズにいく。地図に情報が多いので、長野県飯田市との位置関係が子ども達にパッとわかるものがない。
- ・小学校の教科書で「満州国」という言葉が地図で表されていることや、満洲に移住した人々という記述があるため、学校で満洲について学んだことが、パネルにも満洲（中国東北部）と書かれていれば、より子ども達は関連付けて考えられると思う。自分自身で調べたり、二次元コードから学んでいくことはいいと思う。パネルに取り込みすぎないという基本線で考えていけばいいと思う。
- ・医療関係者、医療従事者が携わっていたというところと、誰に人体実験を行ったのか、現地の人たちを使ってというような記述をすべきではないか。
- ・抗日運動関係者が人体実験に使われていたということで、これを読むと中国国民のみが人体実験をされたと感じ取り可能性があるが、中国国民のみでなかった。また、「ウイルス」とあるが、ペスト、コレラこれらを研究、製造していたことがわかるようにしてほしい。
- ・証言を展示すれば分かりやすいし、長野県や飯田の人が携わって恐ろしいことをやっていたとわかると思う。

→裏面のとおり展示を行いました。

731 部隊

731 部隊は、昭和 13 年 (1938 年) ころ以降に、中国東北部 (満州) のハルビン郊外に本部を置き、細菌兵器の研究、開発、製造を主な目的として行っていた日本陸軍の関東軍の部隊で、その活動の過程において、抗日運動の関係者等に各種の人体実験を行いました。

以下には、裁判所の判決文から、731 部隊の理解につながる部分をめぐりましてルビをふりました。

～ 前略 ～

731 部隊の前身は、昭和 11 年 (1936 年) に編成された関東軍防疫部であり、これが昭和 15 年 (1940 年) に関東軍防疫給水部に改編され、やがて 731 部隊の名で呼ばれるようになった。同部隊は、昭和 13 年 (1938 年) ころ以降中国東北部のハルビン郊外の平房に広大な施設を建設してここに本部を置き、最盛期には他に支部を有していた。同部隊の主たる目的は、細菌兵器の研究、開発、製造であり、これらは平房の本部で行われていた。また、中国各地から抗日運動の関係者等が 731 部隊に送り込まれ、同部隊の細菌兵器の研究、開発の過程においてこれらの人々に各種の人体実験を行った。～ 以下略 ～



731 部隊本部の位置 (ハルビン)

東京地方裁判所 平成 14 年 8 月 27 日判決

事件番号：平成 9 年 (ワ) 第 16684 号・平成 11 年 (ワ) 第 27579 号より

注 1) 細菌兵器；コレラ、ペスト等の病原菌または有毒な細菌やウイルスなどを散布する兵器。

注 2) 抗日運動；戦争中の日本の経済、政治、軍事的な進出に対する中国国民等の抵抗運動。

注 3) 人体実験；生きている人間に対する実験。

731 部隊については、戦後日本において長い間その存在が知られていませんでした。

1980 年代に入って、ようやくその全ぼうが学問的にも明らかになりましたが、まだまだ研究途上にあり、社会的にも様々な意見が存在しています。

また、教科書における記述のありようや、被害者遺族の補償をめぐる裁判も起こされました。

こうした状況をふまえて、裁判で事実として認められた内容を同部隊を理解する入口として紹介します。

こうした内容を基にして、みなさん自身が 731 部隊についての理解をさらに深めていただければと思います。



2次元コードよりアクセスしたウェブサイトにて、判決文を掲載しています。

平和を語り継ぐための学習活動について

生涯学習・スポーツ課

1 平和祈念館での案内実績 (10月12日現在)

32回269人の案内を行いました。市内の小中学校の中では、上郷小学校が見学に見え、裏面アンケートの感想をいただきました。

2 R5高校生・若者を対象にしたピースゼミ

9月までに5回の講座を開催し、高校生46人、ユースアドバイザー8人、計54人が参加。昨年度の講座参加者が高校卒業後もユースアドバイザーとしてゼミの運営にかかわっています。

日時	テーマ・内容	参加者数
第1回 4月30日	「私の知りたいを伝えたい」 「平和とは何か」を身近で分かりやすい内容で話し合いを行い、今後の講座内容を検討しました。	13人
第2回 5月27日	「祈念館見学～飯田編～」 平和祈念館を見学し、感じたことや疑問を話し合い、その後案内人から案内を受け更に感じたことや疑問を話し合いました。	7人
第3回 7月17日	「ウクライナのボルシチをとおして見える世界～ボルシチを囲んで交流～」 ウクライナの方と交流、多文化理解を深めました。	12人
第4回 8月11日	「記念館見学～阿智編～」 満蒙開拓平和記念館を見学し、気が付いたことなどを話し合いました。	17人
第5回 9月2日	「戦争反対に関する動きについて」 戦争反対の活動がどのように行われているか、世界の学校でどのような教育が行われているかを講師より聞き、学習しました。	5人

3 市内に残る戦争遺跡ツアー

見学場所 ①奉安殿（飯田女子高等学校付近） ②希望の像（飯田高等学校敷地内）
③松根油採取場所（野底山） ④爆弾三勇士石像（猿庫の泉付近）

○親子対象

7月30日（日）小学生の子どもいる家庭を対象に実施し14組37人の参加がありました。
アンケートの内容

参加理由 ①夏休みの研究テーマとするため（11） ②平和学習に興味があったから（10）
③飯田市の戦争歴史に興味があったから（18） ④その他（7（家族についてきた等））

感想など
・平和祈念館にも行ってみたいと思います。飯田に住んでいながら全く知らなかったのが勉強になりました。（保護者）
・行った事のある場所もあったけれど知らない場所にたくさん遺跡があったので驚きました。1つ1つに深い意味があり、とても勉強になりました。戦争というものが自分の生活の身近にある事も驚きました。（小学4～6年生）
・昔だったらもっともっと険しい山へ入って松根油を採っていたと想像すると一人一人が命をかけて生きていたんだなど戦に行く人、家を守る人、お互いを想って強く生きた姿を想像しただけで涙がでます。（保護者）

○市民対象

8月26日（土）市民を対象に親子と同じコースで実施し12組13人の参加がありました。

参加理由 ①平和学習に興味があったから（2） ②飯田市の戦争歴史に興味があったから（12）
③その他（2（父の戦死））

感想など
・他の戦争遺跡も見たい。
・普段通っている場所にも戦争遺跡があったんだととても勉強になった。
・機会があれば他の遺跡案内をしていただけるとありがたい。
・書物だけの知識でしたので、実物の説明を聞き参考になりました。

上郷小学校 6 年生の見学後の感想のまとめ

飯田市教育委員会

有効回答数 122 人

1 見学日

2023(令和 5)年 8 月 30 日 9 時～9 時 30 分, 11 時～11 時 30 分

2 当日の見学コース

上郷小学校で 2 つのグループに分かれて、満蒙開拓平和記念館と飯田市平和祈念館を見学した。

3 アンケート項目

・あなたが戦争の怖さを一番強く感じた展示とその理由（上位 3 項目）

（1）空襲で爆弾片が貫通した、池田春子さんの銀行服（52 人）

- ・服に破片が刺さって穴があいていたから。ゾッとする。怖いと思った。
- ・体を貫通するほどの爆弾の威力にとっても怖くなった。
- ・爆弾の破片だけでもすごい力があるから、まともに当たったらこわいと思った。
- ・想像したら怖くなった。もし自分がと考えると、すごく怖いから。
- ・戦争の怖さが形となって実際にあった物だから。
- ・無差別に人を殺そうとしたこと。

（2）戦車砲の砲弾（13 人）

- ・弾が重くてビックリした。 ・重たい弾を撃つっていうのが怖かった。
- ・見せてもらったのでも大砲としては小さいものだったから。
- ・戦艦などの(主砲の)方がこれよりはるかに大きいという話で、そんな大きな弾が飛んできたら怖いから。

（3）戦争中の暮らしのイメージ（家の中の再現展示）（10 人）

- ・(金属の供出のため)取っ手のないタンス
- ・灯火管制用の電球を見て、(夜間に敵から)見つからないようにしていることがよく分かったから。
- ・昔の生活は知らない所がたくさんなのと、(戦時下で)たくさんの工夫がかくれていることを解説してもらったから。

以下はその他項目と人数

- ・特攻隊で亡くなった人の展示（9 人） ・ 731 部隊（7 人）

4 感想、気づいた点など

（1）戦争の怖さについて

- ・戦争の怖さをあらためて考えることができたのでよかったです。
- ・すごくたくさん展示してあって怖かった。分かりやすかった。

- ・やっぱり戦争がぼく的には一番怖い。
- ・見学で平和や戦争について詳しく知り、戦争に自分が遭ったら…と考えると、ものすごく怖いものだと実感しました。
- ・戦争の怖さが分かって平和についてもっと考えたいと思いました。
- ・戦争の怖さをあらためて知ることができてとても勉強にもなったし、戦争を起こしてはいけないという戒めにもなった。
- ・戦争をすると悲しい思いをする人がたくさんいる。
- ・たくさんしたことわかって、今にも続く戦争を悲しく思えました。

(2) 知識が得られた、分かりやすかった

- ・初めての戦争についてだけど、分かりやすかった。(3人)
- ・もう少し戦争のことを知りたい。
- ・戦争の事をくわしく説明してくれたので分かりやすかった。
- ・パネルにたくさん説明が書いてあって分かりやすかったです。いろいろな物が置いてあって良かったです。とても楽しかったです。(2人)
- ・実際にその実物が展示されていて分かりやすかった。
- ・飯田に特攻隊員がいたことを初めて知った。
- ・平和は当たり前だと思っていたけど、当たり前じゃない事に気がつきました。
- ・今まで戦争や平和についてあまり興味がなかったけど、この見学で少しずつ興味を持ってよかったです。

(3) 展示について

- ・今では見られない物がたくさんあって勉強になりました。(3人)
- ・本物の爆弾(戦車砲弾)や服、お札など実物がたくさんあってとてもわかりやすかった。今度、家族で行きたいと思った。
- ・展示してある物を見てどういうことがあったかを想像しやすかった。分かりやすかった。
- ・戦車の砲弾が重いのにびっくり。本物を持つなどの体験はなかなかできないのでいいなと思った
- ・ほかの寄贈された物も見たい。展示が見やすく説明も分かりやすかった。
- ・展示が少なく飽きずに見られたのでよかったです。

731 部隊員に所属されていた方の証言パネルに関する経緯について

1. 証言パネルの作成経緯について

* 平和資料収集委員会から提案いただいたパネルの、4人の方のうち3人の方（A～Cさん）のものについては、過去に、任意団体である「平和のための信州・戦争展」飯伊地区実行委員会が主催した「平和のための信州・戦争展」の関連事業の中で、731 部隊に所属されていた方が話された内容に基づいて、同実行委員会の方が作成したものであり、教育委員会が聞き取ったものではありません。

* もう1名の方（Dさん）のパネルは、同実行委員会の方が、731 部隊に所属されていたDさんが執筆した書籍や講演会での内容を基にして作成したものです。

証言者等	住所	証言パネル作成の経緯
Aさん	飯田市	「平和のための信州・戦争展」での講演内容や（編者）日本児童文学者協会満洲第731部隊の図書を基に同事業の実行委員会関係者が作成
※Aさんは現在平和祈念館に展示してある731部隊に関する資料の元々の所有者です。		
Bさん	喬木村	「平和のための信州・戦争展」での講演内容を基に同事業の実行委員会関係者が作成
Cさん	宮田村	「ミニ戦争展・平和のつどい」での講演内容を基に同事業の実行委員会関係者が作成
Dさん	長野市	「日の丸は紅い涙に 一第七三一部隊員告白記」（1983年・教育史料出版会）や講演会（日時など不明）での証言を基に同実行委員会関係者が作成

2. 開館時に証言パネルの展示を見送った理由

① 遺族の展示同意が得られなかったものがある

* 展示に関する検討過程で行った遺族への意向確認において、展示に同意が得られないものがありました。

② 展示に関して慎重意見があった

* 展示に関する検討過程で、平和資料収集委員会の皆さんにも同席いただき行った小中学校教諭及び女性団体との意見交換において、多様な意見が出されました。

<小中学校教諭との意見交換；令和3年7月・11月>

- ・ 展示する際の出典や、人名があるので授業で使用するにはかなり配慮がいる。
- ・ 戦争の生々しい部分については、検討してほしい。
- ・ 展示が飯田市の物になるため、想いでなくある程度折り合いをつけた展示内容にすることが必要ではないか。

<女性団体との意見交換；令和3年11月>

- ・ 展示内容はみんなが納得できるものにしていただき、危なくない展示内容にしてほしい。
- ・ 731 部隊の展示はみたくない。加害者、被害者それぞれで残された人が苦勞している。家族の気持ちを考えてほしい。また、この731 部隊の展示は、ある程度大人になって様々な事が選別できるようになってから見せるべきだと思う。

小中学校への貸出教材について

1 目的

飯田市平和祈念館が所蔵しながらも活用できていない平和資料を整理して貸し出す。
小中学校の授業に平和資料を活用し、授業の理解を深めるとともに平和学習を推進する。

2 小中学校社会科教員との意見交換（令和5年10月13日実施）

- ・授業で使用する資料集よりも実物を見た方がより実感がわく。
- ・貸出セットの中身の品数が多くする必要はないが、貸出セットがあると活用しやすい。
- ・飯田市と戦争の関りがわかる貸出教材があるといい。

3 貸出教材（案）

（1）小学校3年生 国語 「ちいちゃんのかげおくり」用

【あらすじ】

「かげおくり」とは、影法師をじっと見つめた後にすぐ空を見上げると、影が空に映って見えるという遊び。お父さんが戦争に向かう前日に、ちいちゃんとお兄ちゃん、お母さん、お父さんは4人で「かげおくり」をした。かげぼうしはまるで記念写真のように映った。家族3人の暮らしが始まった夏、空襲に遭いちいちゃんはひとりぼっちになる。家族を思いながら防空壕の中で干し飯で空腹に耐えるちいちゃん…悲惨な戦争に消えた、小さな命の物語。

【祈念館に寄贈された資料で活用するもの】

ゲートル、千人針、写真、充員召集令状袋、雑のう袋、爆弾片など

【自作するもの】 モンペ、干し飯、防空壕の様子解説パネルなど

（2）小学校4年生 国語 「一つの花」用

【あらすじ】

食糧難の中、幼いゆみ子はいつもお腹をすかしており、食べ物を母親にせがむ。母親は、わが子にお腹いっぱい食べさせてあげられない悲しさを隠し、「一つだけよ…」と言い聞かせながらゆみ子に食べ物を与える。おかげで、ゆみ子が覚えた最初の言葉は「一つだけ」だった。

やがて、父親は出征。その出発の日、「一つだけ」とぐずり始めたゆみ子のために、父親は一輪のコスモスをゆみ子に与え、何も言わずに汽車に乗って戦争へ行ってしまう。最後の別れ。

10年後、父親の顔を覚えていないゆみ子は母親と二人暮らし。ゆみ子はコスモスに囲まれた小さな家に母親と生活し、おひるを作るまでにたくましく成長していた。

【祈念館に寄贈された資料で活用するもの】

軍事郵便、写真、日章旗、肩掛カバン、弁当箱、水筒、衣料きっぷなど

【自作するもの】 防空頭巾、軍歌のCD、出兵時の様子解説パネルなど

（3）中学校 社会科歴史用

第二次世界大戦を中心とした学習教材として、当祈念館に寄贈された平和資料全般について、その来歴を踏まえて貸し出す。当時の戦場の状況や、銃後の生活について体験できる教材とする。

【祈念館に寄贈された資料で活用するもの】

日章旗、水筒、軍服、勲章、東亜現勢地図、当時発刊された書籍、軍事郵便、写真、陶製アイロン、電灯カバー、戦時中子ども用遊具など